

12 玉井窪川越場跡
熊谷市玉井

現在川は細いが、安政2年(1855)の「五街道細見独案内」に“満水のときは、往来を人足にて渡す”という記録があるほどの難所だった。

13 明治天皇御小休所跡
熊谷市新堀

籠原バス亭の少し先に建つ石碑。「明治天皇御小休所跡」の文字が刻まれる。現在、周辺は住宅地となっており、昔の面影はない。

中山道まめ知識

北条軍・豊臣軍の攻撃を受けた深谷城の激動の歴史

深谷城は康正2年(1456)、上杉房憲による築城とされる。小田原・北条氏に果敢に対抗するも、豊盛の代に北条の軍門に下り、この後に豊臣軍の攻撃で落城の憂き目にあった。城址公園はこの激動の歴史を静かに物語っている。

中山道まめ知識

上杉家ゆかりの国済寺は旧跡や文化財の宝庫

上杉憲英は高僧の峻翁令山禅師を招き、一族が居住した館の中にこの寺院を創建した。その後天正18年(1590)には、徳川家康から寺領30石の朱印状を下付された。境内には憲英の墓が現存し、県の旧跡に指定されている。

15 国済寺
深谷市国済寺

臨済宗南禅寺派の寺院で、康応2年(1390)に深谷城主の上杉憲英が創建し、当時は約8万坪もの広さを誇った。黒門は市の文化財。

16 常夜燈
深谷市原郷

いちよう並木がとぎれるあたりに建つ高さ4mの大きな常夜燈は、深谷宿の東の入口の目印。約1.7km先の田所には、西の常夜燈がある。

20 深谷駅
深谷市原郷3丁目

明治時代風に仕上げたレンガ造りの駅舎で、市民に親しまれている。駅前には、郷土が生んだ偉人・渋沢栄一の像も建つ。

22 清心寺
深谷市霊場

保元・平治の乱で活躍した岡部六弥太が、平の清盛の弟・忠度を討ちとり、後に彼の死を悼んで五輪の供養塔を建てたという歴史をもつ。

坂垣街道 深谷の驛

淡斎英泉画。客をいざなう深谷宿の旅籠屋の飯盛女たちを艶やかに描いている。

深谷七夕まつり

中山道を中心に、商店街地域で毎年7月の3日間行われる。江戸時代の宿場町の頃より始まったとされ、北関東一を誇る七夕まつり。

14 熊野神社
深谷市東方

右手のずっと奥まった場所に静かにたたずむ社で、赤い鳥居が印象的。あたりにはいちよう並木が続き、四季折々に移ろう景観が美しい。

中山道まめ知識

近代自由主義経済の基礎を築いた渋沢栄一

渋沢栄一は天保11年(1840)深谷市血洗島の農家に生まれた。昭和6年(1931)91歳でこの世を去るまでに関係した事業は、第一国立銀行(後の第一勧銀)をはじめ営利事業が約500、社会公共事業は600余りにものぼっている。

17 東源寺
深谷市稲荷町

左手の山門の前には、「死ぬ事を知って死ぬ日や」としのぐれ」と銘のある自然石がある。加賀国の俳人である菊岡坊祖英によるもの。

18 深谷城址公園
深谷市本住町

右手一帯が石垣に覆われた城址公園で、内堀が当時の姿を思い起こさせる。東側にある富士浅草神社の池と水路は、当時の外堀であった。

19 三光院
深谷市本住町

浄土宗の名刹でまたの名を「大鶴山浄安寺」。徳川家康の甥で、25歳の若さで没した深谷城主・松平康直の墓があることで知られる。

21 常夜燈
深谷市田所町

飯島本陣跡を過ぎると、深谷宿の西の入口を示す常夜燈が建つ。あたりには、今も旅籠屋の面影を残す土蔵や格子のある家が点在する。

深谷宿

日本橋からの距離
9里5町40間(約75km)
家数:524軒
人口:1928人
本陣:1軒
脇本陣:4軒
旅籠屋:80軒

深谷市

